

事業報告

全学教育研究部門 事業報告

全学教育 FD ワークショップ

教養セミナー科目

開催日時 平成22年3月8日(月)

15:00～16:45

場 所 全学教育講義棟104番教室(1階)

主 題 教養セミナーにおける学習成果の検証
とこれに基づく学習評価
～ラーニング・ポートフォリオとルー
ブリックの活用について～

趣 旨

学生の学習過程を詳細に把握できるラーニング・ポートフォリオの活用や、学生の学習成果にもとづいた客観的な成績評価ができるルーブリック(評価基準)の活用は、少人数クラスの教養セミナーの授業改善に有用であるかも知れない。そこで本ワークショップでは、ラーニング・ポートフォリオの先導的研究者である土持先生をお招きし、教養セミナー授業における授業改善や客観的な成績評価手法を理解することを目的に、ラーニング・ポートフォリオやルーブリックを実際の授業で活用した事例をご紹介いただく。また、ラーニング・ポートフォリオ活用のためのツールとして、大学教育機能開発センターが提供している教育指導支援システム「iPortfolioMaker」についての紹介も行う。

なお、本ワークショップでは最初に、教養セミナー担当者(特に初任担当者)を対象として、教養セミナーに関する基本事項の説明と、実施の状況や実施面での課題、さらに22年度からの変更点などを報告する。

参加対象者

平成22年度教養セミナー担当予定の教員、教養セミナーに関心のある教員、教養セミナー委員会委員

実施方法

1) 話題提供(30分/質疑応答含む)

「平成22年度教養セミナーの実施にあたって」
教養セミナー委員会委員長 高橋正克

2) 話題提供(40分)

「ラーニング・ポートフォリオを活用した学習改善とルーブリックによる学習(成績)評価」

弘前大学21世紀教育センター

副センター長 教授 土持ゲーリー法一

3) 話題提供(15分)

「ICTを使った学習ポートフォリオの活用支援」

大学教育機能開発センター助教

井ノ上憲司

4) 質疑応答ならびにディスカッション(20分)

出席者数: 20名

外国語科目

開催日時 平成22年3月10日(水)

10:00～11:40

場 所 全学教育講義棟205番講義室

主 題 学習の継続性を考える

趣 旨

長崎大学において、主要な全学教育のひとつである外国語教育に関しては、より良い授業・教育を実践するために様々な取り組みをおこなっている。近年では、短期留学プログラムや習熟度別クラスの編成と教育が実施されている。また、授業内容のコアな部分を保証する共通指導項目(英語)や共通シラバスが作成され、それに基づいた授業が展開されている。今回の外国語科目委員会FDでは、授業外での学生による学習の取り組みを促進、支援するために、「学習の継続性」という観点から議論し、さらなる外国語教育の改善を行っていきたい。

参加対象者

外国語科目委員会委員

全学教育「外国語科目」担当教員(平成22年度担当予定者も含む)

「外国語科目」に関心のある教員

プログラム

1. 「学習の継続性を考える」

司会進行 西原委員長

＜概要＞

議論に先立ち、今回のFDの司会・進行を外国語委員会委員長とすることが諮られ、参加者の同意を得て、議論に入った。まず、来年度以降の長崎大学での外国語教育の大きな変更点（主に、共通テスト（G-TELP）の実施とCALL教室の設置と運用、支援体制について説明があり、続いて「学習の継続性」を保証する仕組みの実現に関して、意見交換がなされた。多くの授業担当者が学期末に行われる定期試験に加えて、小テストやその他の試験を行い、学習のプロセスの確認やラーニング・ポートフォリオにおけるリフレクション（省察）やドキュメンテーションの提供と確保が行われているが、全体としては統一されていないことが報告された。また、長崎大学の外国語教育においては、これまでの取り組みに加えて、上記のことを実現していく試みを外国語委員会での審議を経て実現していきことが述べられ、意見交換を行った。参加者からは学生が自分の取り組み状況を客観的に把握でき、省察できる環境を少しでも多く確保することが重要であるとの共通認識を得ることができた。今後は、このFDでの意見交換を外国語委員会に諮り、細部を検討して実現化を図りたい。

出席者数： 15名（FD教員を含む）

情報処理科目

開催日時 平成22年3月3日（水）

10：30～12：00

場 所 情報メディア基盤センター第2端末室

主 題 情報処理科目の内容と授業改善および
平成23年度からの情報処理科目につ

いて

趣 旨

平成18年より高等学校で情報科目を学んだ学生が入学している。情報処理科目委員会では、入学している学生の入学前の情報科目の履修状況を踏まえて、今後の情報教育の内容等を議論している。本FDでは、情報処理科目委員会での議論を紹介し、「情報処理入門」（必修）と「コンピュータ入門」（選択）の授業を担当しておられる先生方に、授業内容や学生の理解度等について紹介していただく。これらに関して情報交換を行い平成22年度の授業に役立てていただくとともに、平成23年度からの情報処理科目の構成および内容について意見交換を行う機会を持つものである。

参加対象者

全学教育「情報処理科目」担当教員（平成22年度予定者含む）

情報処理科目委員会委員

「情報処理科目」に関心のある教職員

プログラム

司会：情報処理科目委員会委員長 藤井美知子
（大教センター）

パネラー

①入学前の情報科目履修状況、情報関係学会で
検討されている内容

藤井美知子（大教センター）

②情報処理科目の授業実施内容

全炳徳（教育学部）

藤村誠（工学部）

丹羽量久（大教センター）

野崎剛一（情報メディア基盤センター）

出席者数： 16名

（文責：高橋正克）

評価・FD研究部門 事業報告

1. はじめに

評価・FD研究部門では教育改善に関する種々の取り組みを行っている。本稿では、教育改善委員会と協力しながら進めている当部門の事業「学生による授業評価」および「長崎大学FD」について、その実施概要を報告する。

表2 学生の選択肢

そう思う
どちらかといえばそう思う
どちらともいえない
どちらかといえばそう思わない
そう思わない

2. 平成21年度『学生による授業評価』実施状況

2.1 概要

長崎大学では、平成14年度から全授業科目を対象として『学生による授業評価』を実施している。本学では、『学生による授業評価』を総括的に捉えるために表1のような全学共通項目を設けている。この全学共通項目に加え、全学教育（教養教育）においては科目別追加項目を、専門教育においては部局別追加項目をカテゴリー（評価項目の集まり）として設定している。さらに担当教員は、授業評価毎に個別の追加項目を加えることもできるようになっている。また、学生の選択肢は全ての設問に共通で表2のようにになっている。

表1 全学共通項目

設問1	シラバスは、授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していた。
設問2	授業は目的達成のため計画的に進められた。
設問3	授業担当者の教え方は適切だった。
設問4	授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行った。
設問5	自分は、シラバスに記載された授業目標を達成することができた。
設問6	自分は、この授業によって学習意欲が喚起された。
設問7	総合的にみて、この授業は自分にとって満足できるものであった。

2.2 受付状況および実施状況

平成21年度の受付状況および実施状況は表3に示す通りである。

表3 平成21年度の受付状況および実施状況

受付件数	4,371件
印刷枚数	169,115枚
実施件数	3,572件
回収枚数	115,009枚
回収率(%)	68.0%

表3よりわかる通り、平成21年度においては4,371件の申し込みがあり、事前の取り消しや未実施のものを除くと3,572件が実施された。また、総印刷枚数は169,115枚で、回収枚数（実際に回答された枚数）は115,009枚となっており、回収率は約68.0%であった。

2.3 集計結果の概略

平成21年度に実施された授業評価3,572件の内、全学共通項目を含む授業評価1,722件の集計結果は表4、図1のようであった。

表4 全学共通項目を含む授業評価の集計結果

	5	4	3	2	1	総数
設問1	36,002 45.1%	31,460 39.4%	10,563 13.2%	1,069 1.3%	819 1.0%	79,913 100.0%
設問2	36,126 45.2%	30,717 38.4%	10,244 12.8%	1,806 2.3%	1,018 1.3%	79,911 100.0%
設問3	33,978 42.5%	27,766 34.8%	12,678 15.9%	3,419 4.3%	2,021 2.5%	79,862 100.0%
設問4	29,171 36.5%	25,717 32.2%	17,758 22.2%	4,821 6.0%	2,406 3.0%	79,873 100.0%
設問5	22,545 28.2%	30,385 38.0%	21,356 26.7%	3,832 4.8%	1,748 2.2%	79,866 100.0%
設問6	26,817 33.6%	27,639 34.6%	17,519 21.9%	4,958 6.2%	2,935 3.7%	79,868 100.0%
設問7	29,766 37.3%	27,988 35.1%	15,243 19.1%	4,277 5.4%	2,569 3.2%	79,843 100.0%

5: そう思う, 4: どちらかといえばそう思う, 3: どちらともいえない,
2: どちらかといえばそう思わない, 1: そう思わない

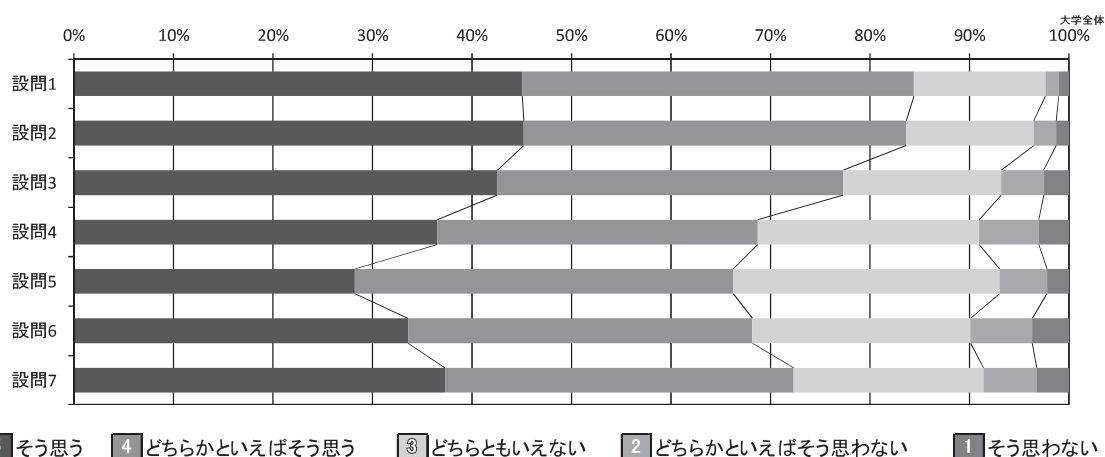


図1 全学共通項目を含む授業評価の集計グラフ

参考資料

- [1] 長崎大学公式ページ『大学点検・評価』→『学生による授業評価』:
http://www.nagasaki-u.ac.jp/plan/pln_jug_hyoka.html
- [2] 長崎大学大学教育機能開発センター公式ページ『授業評価』:
<http://www.redec.nagasaki-u.ac.jp/modules/tinyd0/>

3. 平成 22 年に実施した「長崎大学 FD・SD」

当部門は、教育改善委員会と協力しながら「長崎大学 FD・SD」の企画・運営を行っている。ここでは、平成 22 年 1 月から同年 12 月にかけて全教職員または全教員を対象に実施された集合研修について報告する。

3.1 FD・SD シンポジウム「ファカルティ・ディベロップメントの再構築ーサバイバル戦略としての組織的教育支援・学習支援ー」

(1) 趣旨

教育改善を効果的に進めるためには、個々の授業改善に期待するだけでなく、カリキュラムの見直しを含め全学レベルで組織的に授業改善・授業開発をサポートするとともに、学生への直接の学習支援をも充実させる広汎な FD・SD 活動が求められる。そこで、この点で先進的な教育支援・学習支援を行ってきた米国のスタンフォード大学および日本の立命館大学の事例に学び、長崎県における大学教育刷新に向けて新たな組織整備と FD 実践のあり方を共同で検討する機会を企画した。なお、本シンポジウムは、活水女子大学・長崎県立大学・長崎国際大学・長崎総合科学大学・長崎短期大学の後援を得て実施された。

(2) 対象

高等教育関係者（学生含む）

(3) 日時

平成 22 年 1 月 23 日（土）13 時～17 時

(4) 場所

長崎新聞文化ホール・アストピア 珊瑚の間

(5) 参加数

104 名（学内 38 名、学外 66 名）

(6) プログラム

時間	内 容	講 師
13:00 ～ 13:05	開会挨拶	橋本健夫 理事 (教学担当)
第一部 基調報告と討論		
13:05 ～ 13:50	基 調 報 告 1 「スタンフォード大学における教育支援・学習支援」	マルセロ・クレリチ＝アリアス 副 所 長（スタンフォード大学教授 学習センター）
13:50 ～ 14:10	指定討論「スタンフォード大学の教育改善の考え方を活かした日本における FD 事例」	中島 平 准教授 (東北大学大学院教育情報学研究部)
14:10 ～ 14:45	基調報告 2 「学生とともに進める FD」	木野 茂 教授 (立命館大学共通教育推進機構)
14:45 ～ 15:05	全体討論	司会：山地弘起 准教授（長崎大学）
15:05 ～ 15:20	休 憩、iPortfolioMaker デモ（別室）	
第二部 パネル討論： 「サバイバル戦略としての組織的教育改善」		
15:20 ～ 15:35	発題 1 「長崎総合科学大学における取組み」	貴島勝郎 学長 (長崎総合科学大学)
15:35 ～ 15:50	発題 2 「活水女子大学における取組み」	奥野政元 学長 (活水女子大学)
15:50 ～ 16:05	発題 3 「長崎短期大学における取組み」	安部恵美子 学長 (長崎短期大学)
16:05 ～ 16:20	発題 4 「長崎大学における取組み」	片峰 茂 学長 (長崎大学)
16:20 ～ 16:55	総合討論	司会：奥 恒行 副学長 (長崎県立大学)
16:55 ～ 17:00	閉会挨拶	橋本健夫 理事 (教学担当)

(7) 付記

本シンポジウムの実施報告書を 3 月に制作した。

3.2 シラバス作成 FD

(1) 趣旨

毎年実施しているこの研修は、学生の学習効果を高めるシラバスの書き方を体験的に学ぶものである。授業計画を示すシラバスは、学生にその授業全体の概要を知らせ、授業への心構えを持たせる上でも重要な役割を担っており、いわば教員から学生への事前メッセージの意味がある。つまりシラバスとは、授業展開の指針となるだけでなく、教員と学生の間でのコミュニケーション・ツールであり、シラバスの書き方如何によって、学生の学習への心構えも変わってくるといえる。こうした観点から、本FDでは、学生にわかりやすく伝わるシラバスの書き方に焦点を当てた。

(2) 対象

全教員（非常勤を含む）

(3) 日時

平成22年1月26日（火）13:00～15:30

(4) 場所

大学教育機能開発センター会議室

(5) 参加数

12名

(6) プログラム

時間	内 容	講 師
13:00 ～ 13:10	挨拶	橋本 健夫 大学教育機能開発センター長
13:10 ～ 14:10	解説「学生の学習を支援するシラバスの書き方」	岡田佳子 准教授（大学教育機能開発センター）
14:10 ～ 15:20	演習「担当科目のシラバスを書こう」	山地弘起 准教授（大学教育機能開発センター）
15:20 ～ 15:30	まとめ	

(7) 付記

本FDの参加者からの要請で、医学部保健学科内のFD(平成22年2月23日(火)16:15～18:15)に、シラバス作成の講師として協力した。

3.3 全学教育FD・SDワークショップ「ライティングの指導と支援をどう強化するか」

(1) 趣旨

論理的思考力やコミュニケーションスキルなどいわゆる汎用的技能の向上のためには、「書く力」に焦点をおいた教養科目や全学的なライティング支援体制が不可欠になると考えられる。そこで、大学教育機能開発センターと附属図書館との共催で、全学教育と日常の学習支援の双方でライティング指導を充実させるための教職合同研修が企画された。ワークショップ形式により、国立情報学研究所及び金沢工業大学からの先導的実践者の助力を得ながら、参加者相互の経験と知恵を分かち合い、新年度に向けて新たな取り組みの具体化が目ざされた。なお、本研修は、九州地区大学図書館協議会と長崎県大学図書館協議会の後援を得た。

(2) 対象

ライティング指導に関心のある教職員（とくに「教養セミナー」担当者）、図書館職員（他大学職員も含む）

(3) 日時

平成22年3月5日（金）13:00～17:30

(4) 場所

教育学部31番教室

(5) 参加数

26名（学内21名、学外5名）

(6) プログラム

時間	内 容	講 師
13:00 ～ 13:05	開会挨拶	柴多一雄 附属図書館長
13:05 ～ 15:00	セッション1「学術コンテンツの効果的な利用指導ー図書館におけるライティング学習支援ー」	米澤 誠 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長 司会：岡田佳子准教授（大学教育機能開発センター）
15:00 ～ 15:15	休憩	

15:15 ～ 17:25	セッション2「ライティング指導の授業づくり・体制づくりー金沢工業大学における日本語表現教育ー」	藤本元啓 金沢工業大学教授・ライティングセンター長 司会：岡田佳子准教授（大学教育機能開発センター）
17:25 ～ 17:30	閉会挨拶	高橋正克 教授（大学教育機能開発センター）

3.4 新任教職員研修「ウェルカムFD・SD」

(1) 趣旨

新任の教職員を対象に、長崎大学で職務を開始するにあたってのガイダンスを、例年同様二日間に亘って行った。一日目は、歴史的遺構を巡るキャンパスツアー「長崎大学歴史散歩」を行い、長崎大学にかかわる歴史を知って本学への帰属意識を深めることが目ざされた。二日目は、長崎大学が目ざす教育、研究、社会貢献等に関する基本的知識を得ることが目ざされた。

(2) 対象

平成21年4月4日から平成22年4月1日までに長崎大学に新たに赴任した教職員

第一日「長崎大学歴史散歩ー150年をふりかえる」

(3) 日時

平成22年4月5日（月）12:00～16:50

(4) 場所

長崎大学（文教・片淵・坂本各キャンパス）

(5) 参加数

25名

(6) プログラム

時間	内容	講師
12:00 ～ 12:05	挨拶	橋本健夫 理事（教学担当）
12:05 ～ 12:20	特別講演①「長崎大学150年の意味からみた展望」	片峰 茂 学長
文教キャンパス歴史散歩		

12:30 ～ 13:45	正門前パネル（三菱兵器工場跡）	橋本健夫 理事（教学担当）
	長崎師範原爆慰霊碑	
	中部講堂	
	環境科学部正門前（旧教養部建物）	下田研一 班長（学術情報部）
	古写真資料室および中央図書館	
	お菓の歴史資料館（薬学部）	
	下村脩名誉博士顕彰記念館（薬学部）	池田理恵 助教（医歯薬学総合研究科）

片淵キャンパス歴史散歩

14:15 ～ 15:15	入り口の架橋	深浦厚之 教授（経済学部）
	長崎高商門標	
	瓊林会館	
	赤レンガ倉庫	東條 正 経済学部長
	特別講演②「高商100年と武藤文庫」	
	武藤文庫案内	

坂本キャンパス歴史散歩

15:35 ～ 16:45	傾いた門柱	高橋正克 教授（大学教育機能開発センター）
	良順会館1階ミュージアム	
	西洋医学史展示（附属図書館医学分館展示室）	平林 昇 主査（学術情報部）
	熱帯医学研究所ミュージアム	堀尾雅博 教授（熱帯医学研究所）
	原爆後障害医療研究施設2号館1階展示室	三根眞理子 准教授（医歯薬学総合研究科）
16:45 ～ 16:50	まとめ	丹羽量久 教授（大学教育機能開発センター）

第二日「長崎大学が目指すもの」

(3) 日時

平成22年4月6日（火）13:00～16:40

(4) 場所

事務局第5会議室

(5) 参加数

21名

(6) プログラム

時間	内 容	講 師
13:00 ～ 13:10	挨拶	橋本健夫 理事 (教学担当)
13:10 ～ 13:30	特別講演「長崎大学の今後の展望」	片峰 茂 学長
第一部「長崎大学が目指すもの」		
13:30 ～ 13:50	「長崎大学の研究支援」	調 漸 理事 (研究・社会貢献担当)
13:50 ～ 14:10	「長崎大学の教育とFD」	橋本健夫 理事 (教学担当)
14:10 ～ 14:30	「長崎大学の入試について」	山口恭弘 副学長 (入試担当)
14:30 ～ 14:50	「長崎大学の学生支援」	田井村明博 副学長 (学生担当)
14:50 ～ 15:00	休 憩	
第二部「長崎大学の学習・教育支援」		
15:00 ～ 15:20	「長崎大学FDについて」	山地弘起 准教授 (大学教育機能開発センター)
15:20 ～ 15:40	「ICTを活用した授業支援」	鈴木 斉 講師 (情報メディア基盤センター) 井ノ上憲司 助教 (大学教育機能開発センター)
15:40 ～ 16:00	「学生による授業評価について」	古賀掲維 准教授 (大学教育機能開発センター)
16:00 ～ 16:20	「学生相談・ハラスメント対策」	富永ちはる カウンセラー (保健・医療推進センター)
16:20 ～ 16:40	質疑応答・まとめ	丹羽量久 教授 (大学教育機能開発センター)

3.5 ディプロマポリシー作成 FD

(1) 趣旨

長崎大学の第二期中期計画において、平成22年度中に全学部で3つのポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）を作成することが求められていた。そこで、各学部のポリシー作成責任者を対象に、3つのポリシーを作成する背景と意義を説明し、また広報面での課題を共有して、まずディプロマポリシー作成に着手してもらうための研修を実施した。なお、全体研修（①）に参加できなかった工学部（②）、医学部保健学科（③）、歯学部（④）については、日時を調整のうえ、別途実施した。

(2) 対象

各学部のポリシー作成の責任者（教育改善委員会委員、教務委員会委員、コースや専攻の主任など）

(3) 日時

- ①平成22年6月21日（月）13:00～16:00
- ②平成22年6月24日（木）13:00～16:00
- ③平成22年7月6日（火）14:30～17:00
- ④平成22年7月9日（金）13:00～16:00

(4) 場所

- ①総合教育研究棟2階 多目的ホール
- ②大学教育機能開発センター会議室
- ③大学教育機能開発センター会議室
- ④歯学部C棟6階 第3会議室

(5) 参加数

- ①30名
- ②工学部3名
- ③医学部保健学科2名
- ④歯学部2名

(6) プログラム (①の全体会についてのみ掲げる)

時間	内 容	講 師
13:00 ～ 13:05	挨拶	尾野村治 教授 (教育改善委員会・授業改善 WG 座長)
13:05 ～ 13:35	「3つのポリシー (アドミッション・ディプロマ・カリキュラム) 作成の背景と意義」	岡田佳子 准教授 (大学教育機能開発センター)
13:35 ～ 13:55	「経済学部での現状報告」	深浦厚之 経済学部・副学部長
13:55 ～ 15:45	グループワーク (学部ごとに分かれてディプロマポリシー作成に着手)	岡田佳子 准教授 (大学教育機能開発センター)
15:45 ～ 16:00	まとめ	

(7) 付記

本 FD に先だって 3つのポリシーの作成フォーマットを検討・制作するとともに、本 FD 以後は、適宜各学部のディプロマポリシー作成及びそれに続くカリキュラムポリシー作成の支援にあたった。また、教育学部内の FD (平成 22 年 8 月 30 日 (月) 14:00~16:00) に、ポリシー作成の講師として協力した。

3.6 FD・SD サマーワークショップ

(1) 趣旨

本ワークショップ・シリーズは、長崎大学の教職員が授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指して、毎年実施されている。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れて、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できるプログラム構成を試みている。

(2) 対象

全教職員 (非常勤を含む)

(3) 日時

平成 22 年 9 月 2 日 (木) 13:00-15:00

15:15-17:15

9 月 3 日 (金) 13:00-15:00

15:15-17:15

9 月 6 日 (月) 13:00-15:00

15:15-17:15

9 月 7 日 (火) 10:00-12:00

(4) 場所

文教キャンパス内

(5) 参加数

延べ 123 名

(6) プログラム

時間	内 容	講 師
9 月 2 日 (木)		
13:00 ～ 15:00	授 業 改 善 講 座 1 「WebClass 活用入門」	丸田英徳 助教 (情報メディア基盤 センター)
15:15 ～ 17:15	コミュニケーション講座 1 「わかりやすい話し 方のコツ」	小田切めぐみ氏 (話し方講師・東京 農工大学非常勤講 師・文京学院大学 非常勤講師)
9 月 3 日 (金)		
13:00 ～ 15:00	コミュニケーション講座 2 「学生との信頼関係の 構築」	富永ちはる カウン セラー (保健・医 療推進センター)
15:15 ～ 17:15	授業改善講座 2 「身近な 授業改善のヒント」	鈴木利一 教授 (水産学部) 堀井健一 教授 (教育学部)
9 月 6 日 (月)		
13:00 ～ 15:00	授業改善講座 3 「ライ ティング指導をカリキュ ラムから考える」	井下千以子 教授 (桜美林大学心理・ 教育学系)
15:15 ～ 17:15	授業改善講座 4 「図書館 の教育支援を活用する」	
9 月 7 日 (火)		
13:00 ～ 15:00	授業改善講座 5 「P B L へのチャレンジ」	桑原宏永 助教 (医歯薬学総合研究 科) 松成裕子 准教授 (医歯薬学総合研究 科) 高橋正克 教授 (大学教育機能開発 センター)

3.7 教育革新キックオフ・シンポジウム「学士課程教育の充実に向けて ～ジェネリックスキルの育成～」

(1) 趣旨

大学の教育成果が厳しく問われている今日、特にジェネリックスキル（汎用的技能）として要請される「社会人基礎力」や「学士力」、OECDのAHELO（Assessment of Higher Education Learning Outcomes）などに関しては、各大学とも効果的なカリキュラムの開発を急ピッチで進めている。長崎大学でも教養教育刷新を始め、各学部において学士課程教育の改善が試みられているが、ジェネリックスキル育成の教育カリキュラムの具体像が十分共有されているとはいえない。そこで、あらためて現在の高等教育をとりまく社会的・政策的状況を踏まえた上で、ジェネリックスキル育成に直結するカリキュラム改編や授業改善の方向が見いだせるよう、先端事例を含むシンポジウムを企画した。

(2) 対象

長崎大学の教職員、関心ある県内大学教職員

(3) 日時

平成22年11月21日（日）13:30～17:30

(4) 場所

中部講堂

(5) 参加数

100名（学内91名、学外9名）

(6) プログラム

時間	内容	講師
13:30 ～ 13:45	開会挨拶	片峰 茂 学長
13:45 ～ 14:45	基調講演「学士課程教育の射程の拡大から統合にむけて ～目標設定から教育内容・方法と評価へ～」	濱名 篤 学長 (関西国際大学)
14:45 ～ 15:00	休憩	
15:00 ～ 15:25	パネリスト報告1「今日の教養教育の動向～教育体制の整備とアクティブラーニングの展開～」	小笠原正明 特任教授 (筑波大学)

15:25 ～ 15:50	パネリスト報告2「企業が求める人材と『学士力教育』改革への期待」	福島昭二 監事 (長崎大学)
15:50 ～ 16:15	パネリスト報告3「時代を先取りする大学教育～KITポートフォリオシステムと統合力・ラーニング型授業～」	藤本元啓 教授 (金沢工業大学)
16:15 ～ 17:15	パネルディスカッション	司会：橋本健夫 副学長
17:15 ～ 17:30	総括	濱名 篤 学長 (関西国際大学)

(7) 付記

本シンポジウムの内容は、ウェブ上で学内オンデマンド視聴が可能になるよう準備中である。

3.8 アクティブ・ラーニング講座1「多様なPBLを導入した授業方法」

(1) 趣旨

上記の教育革新キックオフ・シンポジウムを受けて、アクティブ・ラーニングと総称される学生主体の学習形態に関するFDを、今後1年間継続して実施していく予定である。

ジェネリックスキル育成のためにはアクティブ・ラーニングが有効であるが、その中でも、現実的な文脈のなかで問題発見・問題解決を促すPBLの手法が注目を集めており、本学においても教養教育と専門教育の別を問わず、より広範囲での導入が期待されている。そこで、平成17年度以降、PBLを全学的に展開している三重大学の実践経験に学びながら、PBL導入に際して教員に求められる知識・技能・態度、及び実践上の留意点や環境的支援のあり方等について、ワークショップ形式で習得する宿泊研修を企画した。併せて、学長との間で教養教育刷新と今後の教育改善に関する討論を行う機会を、冒頭に設けた。

(2) 対象

全教員

(3) 日時

平成22年12月18日（土）12:30～
12月19日（日）11:30

(4) 場所

ながさき式見ハイツ

(5) 参加数

45 名（部分参加含む）

(6) プログラム

時間	内 容	講 師
12 月 18 日（土）		
11:00	大学集合、バスで会場へ移動	
11:30 ～ 12:30	受 付、昼 食	
12:30 ～ 13:45	セッション 0 講演と討論「長崎大学における学士教育イノベーション」	片峰 茂 学長
13:45 ～ 14:00	休 憩	
14:00 ～ 16:00	セッション 1 講義「三重大学での PBL の導入経過と PBL の概要」	山田康彦 教授 （三重大学教育学部・高等教育創造開発センター教育開発部門長）
16:00 ～ 16:15	休 憩	
16:15 ～ 17:15	セッション 2 講義「PBL を軸とした教育の成果評価」	中西良文 准教授 （三重大学教育学部・高等教育創造開発センター教育評価部門長）
17:15 ～ 17:30	休 憩	
17:30 ～ 19:30	セッション 3 グループワーク「PBL シナリオを作ってみる」	中西良文 准教授 （三重大学教育学部・高等教育創造開発センター教育評価部門長）
19:30 ～ 20:30	夕 食	
20:30 ～ 22:00	懇親会	
12 月 19 日（日）		
7:30 ～ 8:30	朝 食	

9:00 ～ 10:45	セッション 4 グループワーク「各部局での PBL 授業を構想する」	山田康彦 教授 （三重大学教育学部・高等教育創造開発センター教育開発部門長）
10:45 ～ 11:00	休 憩	
11:00 ～ 11:30	まとめと今後の計画	司会：山地弘起 准教授（大学教育機能開発センター）
11:45	バスで大学へ、到着後解散	

(7) 付記

本 FD に先だって、長崎大学の 8 名の教職員が事前研修として三重大学を訪問調査した（平成 22 年 11 月 17 日（水）～ 18 日（木））。そのメンバーを中心に、本 FD 終了後、PBL 関連の情報交流と授業開発を行うプロジェクトが組織された。

なお、本 FD の講演部分は、ウェブ上で学内オンデマンド視聴が可能になるよう準備中である。

3.9 その他

平成 22 年 6 月、教育改善委員会のもとに「学生による教育改善のための協議会」（全 8 学部より 2、3 年生を 2 名ずつ推薦）が置かれ、教養教育と全体的な学習環境について学生の要望を集約し伝達してもらう体制がつくられた。大学教育機能開発センターとしては、学生と協働での FD・SD を企画、実施したいと考えており、2 名のメンバーを、第 3 回学生 FD サミット（平成 22 年 8 月 28 日（土）～ 29 日（日）立命館大学）に教職員 2 名とともに派遣した。但し、この協議会は学生を代表する組織としては未だ認知されていないため、学生支援プログラム他との協働を提案しつつ、学生自身で学生の声をまとめていく具体的な工夫を促している。

4. おわりに

本稿では、大学教育機能開発センター評価・FD 研究部門が関わる二つの事業「学生による授業評価」と「長崎大学 FD・SD」について、平成 22 年の事業概要を報告した。

（文責：丹羽量久，山地弘起，古賀掲維）

教育指導支援システム研究開発部門 事業報告

1. まえがき

大学教育機能開発センター教育指導支援システム研究開発部門は、平成20年度政策課題対応経費事業（教育改革）『初年次教育指導支援システム』を用いた教育改善の実践と展開を進めるにあたって、大学教育機能開発センターに平成22年度末までの3年間の時限付きで設けられた組織である。この事業は引き続き平成21年度の特別教育研究経費事業「先端的な教育支援システムとFD活動による地域の教育力向上プロジェクト」、及び、平成22年度「教育指導支援システムの共同利用による地域の教育力向上プロジェクト」として進められている。

本事業では、多様化する学生への教育の質保証を目的として、教員の日々の教育活動を支援するために構築した「教育指導支援システム」を活用し、教育改善を長崎大学において実践するとともに、その成果を地域の教育力向上のために活用する計画としている。

「教育指導支援システム」の運用にあたって、当部門では、授業を担当する教員の負担を軽減するとともに、よりよい授業を学生に提供できるように、ICT(Information and Communication Technology)を活用した支援ツール「iPortfolioMaker」を提供し、その改良を継続するとともに、教員がこの「iPortfolioMaker」を容易に活用できるように種々の支援活動を実施している。さらに、他大学においても「教育指導支援システム」を利用して教育改善活動を進めることができるよう、整備を進めてきた。

本稿では、「教育指導支援システム」の概要について述べたのち、本学および他大学に向けた周知活動の概要と、教員や学生がシステムを容易に活用できるように当部門が実施してきた種々の支援内容について報告する。

2. システムの概要

「教育指導支援システム」では、ICTを活用した支援ツールである「iPortfolioMaker」を提供するとともに、それを活用する教員をさまざまな面から支援する。この「iPortfolioMaker」は、Webブラウザを使用し、講義資料、学生へのアンケートの質問と回答、レポート、指導記録等の授業資料を授業のポートフォリオ（図1）として電子的に蓄積する機能を有する。教員は「iPortfolioMaker」に収集・蓄積した授業資料を取り出し、授業の改善活動に活用できる。「iPortfolioMaker」を用いると、学生のアンケートなどの回答の集計結果を簡単操作で閲覧でき（図2）、クラス全体の学習状況の傾向などを容易に把握できる。

学生は履修している授業のポートフォリオに用意された授業資料を確認したり、レポートを提出したり、アンケートに回答する。それを授業の振り返りにも活用することができる。また、「iPortfolioMaker」は、コンピュータ教室以外で実施される授業に対応するため、携帯電話を使って学生が回答（図2）できるようにしている。

当部門では、「教育指導支援システム」の運用体制を整え、「iPortfolioMaker」を実際の授業において利用しながら改良を進めるとともに、授業で



図1 ポートフォリオへの情報の蓄積と分析

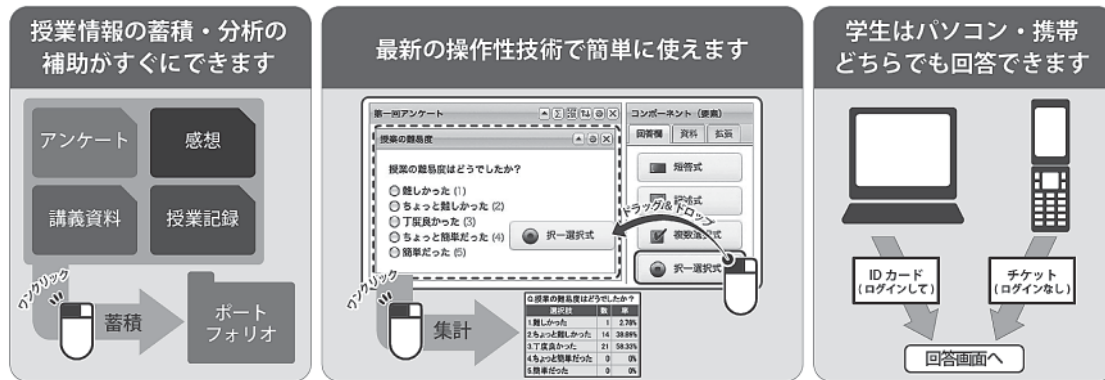


図2 iPortfolioMaker の特徴

の活用方法の検討・研究，教員や学生への利用方法の支援・提案など総合的な活動を行っている。

3. 実施内容

当部門においての本年度の実施内容を報告する。本年度は，昨年度まで行ってきた教員・学生向けの支援体制を維持しながら，本年度の目的である「地域の教育力向上」に向けた，学内及び他大学への周知・支援活動を行い，充実を図った。具体的な内容を以下に示す。

3.1 利用教員への支援

「iPortfolioMaker」を利用する教員向けに，前述のワークショップ以外に，以下のような利用支援

を行っている。

1) 教員用アカウント（利用）の登録

教員からの利用申込みを受け，「iPortfolioMaker」にアカウントを登録したのち，『教員向けマニュアル』と『利用者カード』を送付している。

2) 『教員向けのマニュアル』(図3) の提供

教員向けの操作方法の解説書(80ページ)を作成し，A4版冊子にしたものをアカウント(利用)登録している教員全員に配布した。

また，電子版をWebサイト(<http://www.redc.nagasaki-u.ac.jp/ess/>)にて公開している。

3) 授業・履修学生の登録

教員からの授業登録の申込みを受けて，履修

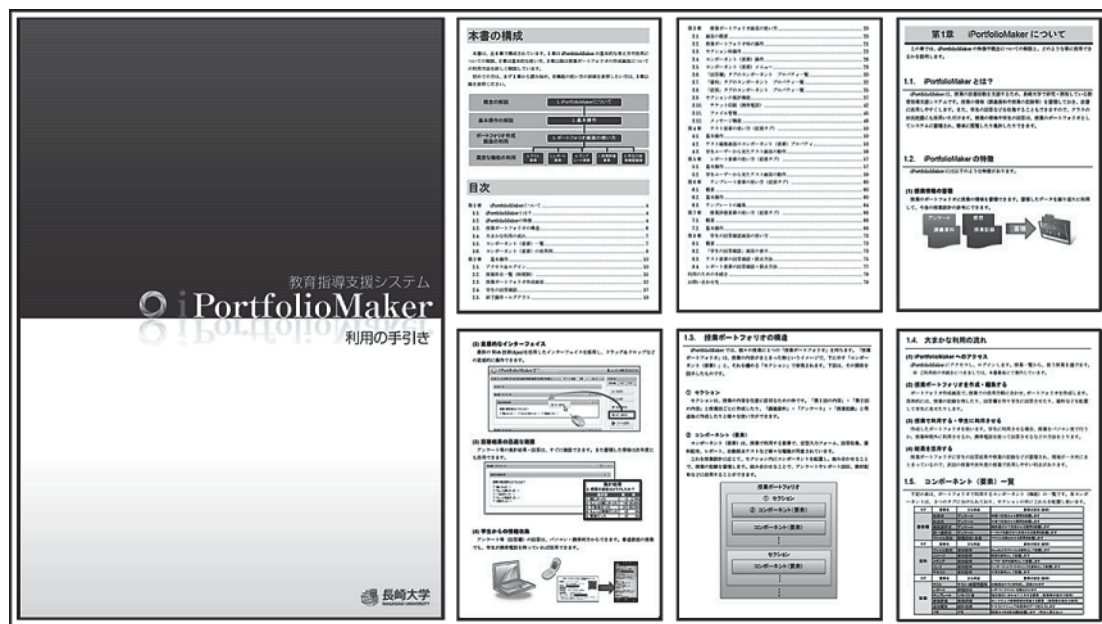


図3 教員向けマニュアル (全80ページから一部抜粋)

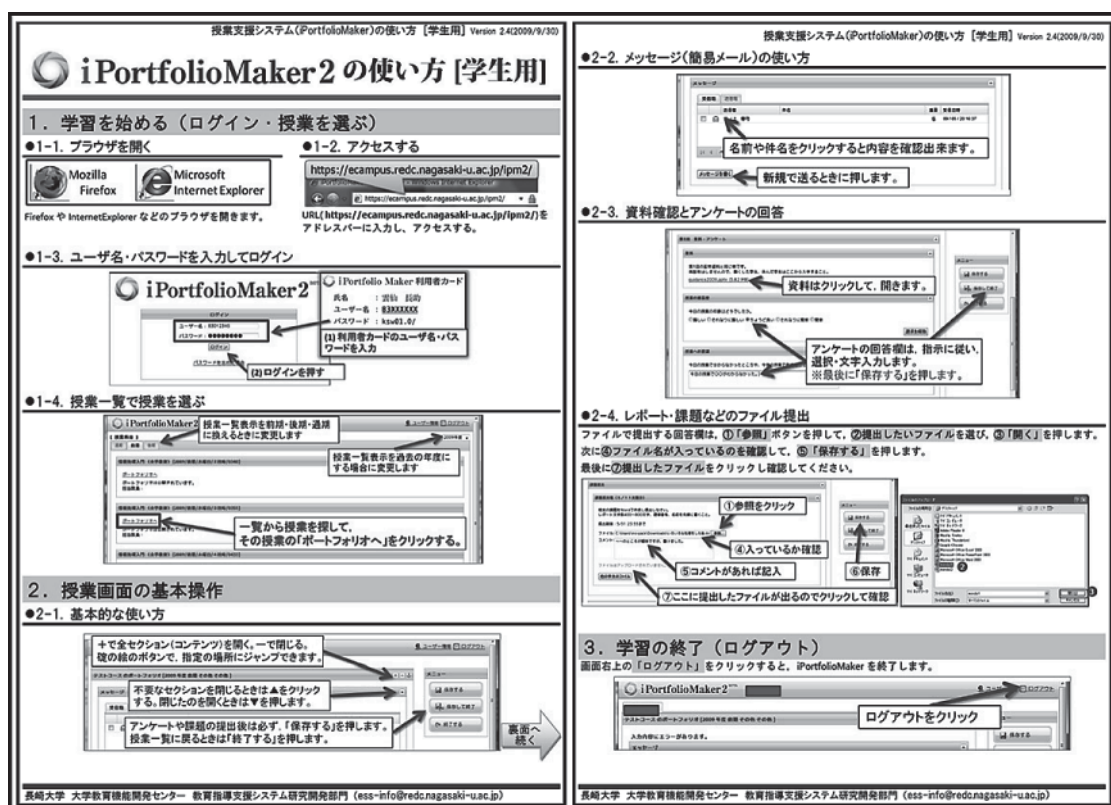


図4 学生向けマニュアル (A4 2 ページ)

学生用の『学生向けマニュアル』(図4)と履修学生の『利用者カード』を送付している。教員はこれらを授業等で学生に配布し、利用させる。

4) 問い合わせ窓口の設置

窓口専用の電話・メールアドレスを用意し、1)～3)に対応するとともに、利用方法などに関する質問に回答している。

5) 教員向け個別対応

必要に応じて利用教員を訪ね、活用方法などに関する説明や提案を行っている。

3.2 利用学生への支援

学生に対しては、以下のような支援を行っている。

1) 利用者カードの再発行

授業の担当教員から配布される『利用者カード』を紛失・破損した場合は、当部門の窓口にて再発行している。

2) 『学生向けのマニュアル』(図4)の提供

学生が、授業のポートフォリオを利用する

ための操作説明書を制作し、リーフレットとWebサイト(<http://www.redc.nagasaki-u.ac.jp/ess/>)にて提供している。このマニュアルは授業の担当教員または、当部門の窓口で配布している。

3) 問い合わせ窓口設置

窓口用のメールアドレス(教員向けと共通)を用意し、学生からの質問に回答している。

3.3 新規の周知・支援活動

「地域の教育力向上」に向けた取り組みとして、他大学に次の2つの周知活動を行った。

平成22年1月23日には、長崎新聞文化会館で開催された長崎大学シンポジウム「ファカルティ・ディベロプメントの再構築－サバイバル戦略としての組織的教育支援・学習支援－」において「iPortfolioMaker」の紹介ブースを設置した。このシンポジウムには長崎大学を初めとした14の大学・機関から104名(教育職67名・事務職37名)の参加があった。

また、平成22年3月8日に長崎大学において「ポートフォリオ活用研究会」を開催した。ポー

トフォリオの先導的研究者である弘前大学(当時)の土持ゲーリー法一教授にポートフォリオの評価方法についての講演をお願いし、合わせて「教育指導支援システム」を活用した授業の構築の紹介を行うことにより、「教育指導支援システム」の利用者の教育力向上に寄与するものとした。他にも、県内外の5大学において、利用の説明会を開催し利用者の拡大に努めた。

これらの活動の成果から、県内外の5つの高等教育機関で提携利用が開始され、種々の活用方法に関する情報交換が行える体制が整った。

本年度末、平成23年3月8日にシンポジウムを開催し、本事業の活動の報告と先進的な事例紹介を行い、教育指導支援システムを活用した教育力の向上に寄与すると共に、事業としての最終報告とする予定である。

4. 利用状況

平成22年12月22日時点での「iPortfolioMaker」の登録状況は、表1および表2に示すとおりである。表1は学内外の累積登録者数で、教員159名、学生が4,423名であった。表2は、授業(ポートフォリオ)の登録数で、学内205、学外308で、合計513であった。

表1 登録者数(平成22年12月22日時点)

	教員	学生
長崎大学	82	2,735
他大学	77	1,688
計	159	4,423

表2 登録授業数(平成22年12月22日時点)

年度	学期	長崎大学	他大学	計
2008	後期	43	—	43
2009	前期	43	—	43
	後期	45	—	45
	その他	4	—	4
2010	前期	46	79	125
	後期	19	89	108
	その他	5	140	145
計		205	308	513

5. 対外発表

本部門では、「教育指導支援システム」を実際に利用しながら、そのしくみや利用方法に関するさまざまな研究を行っている。また、「教育指導支援システム」は授業実践、アンケート調査等、多様な取り組みに活用されている。これらの研究、取り組みの成果についての発表一覧を以下に示す。

- 1) 古賀掲維, 福田博之, 丹羽量久: “オープンソースを活用した教育改善システムの開発”, 第9回問題解決環境ワークショップ論文集, pp.65-70(2006)
- 2) 古賀掲維, 福田博之, 坂井慎吾, 直野公美, 丹羽量久: “PSEを用いた教育情報の収集・分析・可視化の試み”, 第10回問題解決環境ワークショップ論文集(2007)
- 3) 坂井慎吾, 直野公美, 藤井美知子, 古賀掲維, 丹羽量久: “テキストマイニングによる授業開始時および授業中アンケートの分析”, 教育システム情報学会研究会報告, Vol.22, No.6, pp.23-28(2008)
- 4) 直野公美, 坂井慎吾, 藤井美知子, 古賀掲維, 丹羽量久: “テキストマイニングを利用した教育改善のためのアクション・リサーチの実践”, 教育システム情報学会第33回全国大会, C1-1(2008)
- 5) 丹羽量久, 直野公美, 坂井慎吾, 藤井美知子, 古賀掲維: “教育情報のテキストマイニング分析を利用した教育改善活動の実践 ―一般情報処理科目における事例―”, 第57回九州地区大学一般教育研究協議会議事録, 九州地区大学一般教育研究会, pp.143-146(2008)
- 6) 丹羽量久, 直野公美, 藤井美知子, 古賀掲維: “一般情報教育における授業中アンケートの活用”, 平成20年度情報教育研究集会, P-9(2008)
- 7) 藤井美知子, 坂井慎吾, 直野公美, 古賀掲維, 丹羽量久: “アンケートの分析結果からみた一般情報処理教育”, 教育システム情報学会研究会報告, Vol.22, No.6, pp.29-32(2008)
- 8) 直野公美, 坂井慎吾, 藤井美知子, 古賀掲維, 丹羽量久: “授業開始時アンケートの分析結果

- と学生の学習履歴の考察”，教育システム情報学会研究会報告，Vol.22，No.6，pp.19-22(2008)
- 9) 丹羽量久，古賀掲維，坂井一也，新田高士：“XML をベースとしたテンプレート・エンジンを用いた教育情報蓄積システムの開発”，第 11 回問題解決環境ワークショップ論文集，pp.39-42(2008)
 - 10) 古賀掲維，井ノ上憲司，飛永三奈，新田高士，坂井一也，直野公美，藤井美知子，丹羽量久：“継続的授業改善を可能とする教育指導支援システムの開発と授業実践”，情報コミュニケーション学会 第 6 回全国大会 (2009)
 - 11) 古賀掲維，井ノ上憲司，坂井一也，新田高士，飛永三奈，直野公美，藤井美知子，丹羽量久：“教育指導支援システム「iPortfolioMaker」の開発”，教育システム情報学会研究会報告，Vol.23，No.6，pp.78-83(2009)
 - 12) 丹羽量久，藤井美知子，直野公美，井ノ上憲司，古賀掲維：“教養科目「情報」における学生の情報リテラシー獲得履歴について”，教育システム情報学会研究会報告，Vol.23，No.6，pp.168-171 (2009)
 - 13) 丹羽量久，藤井美知子，直野公美，井ノ上憲司，古賀掲維：“科目「情報処理入門」におけるアンケートおよび課題成績を用いた文書作成スキルの分析”，教育システム情報学会第 34 回全国大会講演論文集，pp.240-241 (2009)
 - 14) 藤井美知子，丹羽量久，直野公美，井ノ上憲司，古賀掲維：“授業開始前における情報教育に関するアンケートとソフトの実利用技術の関係”，教育システム情報学会第 6 回研究会，Vol.23，No.6，pp.164-167(2009)
 - 15) 藤井美知子，丹羽量久，直野公美，古賀掲維，井ノ上憲司：“ソフト利用技術に着目した入学時と授業実施後における習熟度の把握”，第 58 回九州地区大学一般教育研究協議会資料，第 58 回九州地区大学一般教育研究協議会議事録，pp.139-142 (2009)
 - 16) 藤井美知子，丹羽量久，直野公美，井ノ上憲司，古賀掲維：“「情報処理入門」科目における学習者の状況把握のための調査・分析”，平成 21 年度 情報教育研究集会 講演論文集，pp.31-34 (2009)
 - 17) 直野公美，藤井美知子，丹羽量久，井ノ上憲司，古賀掲維：“テキストマイニングを活用した授業理解度判定のためのアンケートの検討”，教育システム情報学会研究会報告，Vol.23，No.6，pp.172-179(2009)
 - 18) 藤井美知子，直野公美，井ノ上憲司，古賀掲維，丹羽量久：“入学前の情報処理学習状況調査結果と「情報処理入門」科目授業における理解度との関係”，長崎大学 大学教育機能開発センター紀要，Vol.1，pp.55-65 (2010)
 - 19) 丹羽量久，直野公美，藤井美知子：“「情報処理入門」における教育指導支援システム iPortfolioMaker を用いた授業アンケートと授業へのフィードバック”，教育システム情報学会研究報告，vol.24，no.6，pp.54-61 (2010)
 - 20) 丹羽量久，直野公美，井ノ上憲司，古賀掲維，藤井美知子：“「情報処理入門」科目における教育指導支援システム iPortfolioMaker を用いた授業アンケートの実施と文書作成スキルの習得状況の把握”，長崎大学 大学教育機能開発センター紀要，Vol.1，pp.67-80 (2010)
 - 21) 藤井美知子，直野公美，丹羽量久：“「情報処理入門」科目における授業中の「教え合い」について”，情報コミュニケーション学会 第 7 回全国大会講演論文集，pp.36-37 (2010)
 - 22) 丹羽量久，直野公美，藤井美知子：“一般情報科目「情報処理入門」における学習者分析による授業計画の可変的実践の試み”，教育システム情報学会 第 35 回全国大会講演論文集，pp.27-28(2010)
 - 23) 井ノ上憲司，藤井美知子，高橋正克：“学習ポートフォリオを中心とした「初年次セミナー」の質保証と授業設計”，教育システム情報学会 第 35 回全国大会講演論文集，pp.61-62(2010)
 - 24) 大橋絵理，井ノ上憲司，丹羽量久，藤井美知子：“フランス語学習の意欲向上のための Skype による母国語学生とのコミュニケーション”，教育システム情報学会 第 35 回全国大会講演論文集，pp.59-60(2010)
 - 25) 藤井美知子，直野公美，丹羽量久：“大学入学前情報教育の学習経験の変遷（2006 ～ 2010 年

- 度)”, 第58回九州地区大学一般教育研究協議会資料(2010)(印刷中)
- 26) 丹羽量久, 藤井美知子, “学生に適合した授業構成を目指す授業アンケートとその活用—科目「情報処理入門」での実践—”, 第58回九州地区大学一般教育研究協議会資料, (2010)(印刷中)
- 27) 井ノ上憲司, 高橋正克: “学習ポートフォリオを用いた初年次セミナーの授業設計”, 第59回九州地区大学一般教育研究協議会資料, (2010)(印刷中)
- 28) 藤井美知子, 直野公美, 丹羽量久: “大学入学前情報教育の学習経験の5年間の変遷”, 平成22年度情報教育研究集会 講演論文集, pp.259-262 (2010)
- 29) 藤井美知子, 直野公美, 丹羽量久: “大学入学生の情報教育に関する5年間の調査・分析”, 長崎大学 大学教育機能開発センター紀要, Vol.2 (2011)
- 30) 丹羽量久, 直野公美, 藤井美知子: “長崎大学初年次学生のオフィスソフトの習熟状況—2009年度と2010年度におけるアンケートより—” 長崎大学 大学教育機能開発センター紀要, Vol.2 (2011)

6. あとがき

本稿では, 教育指導支援システム研究開発部門の事業報告として, 当部門で改良・運用中の「教育指導支援システム」の概要と開発経緯及び, ICTを活用したツール「iPortfolioMaker」の機能, これまでの利用状況, 加えて当部門の研究について報告した。

本部門の活動は本年度末で終了し解体するが, 本事業報告とは別に「教育指導支援システム」の成果等を詳しく記した「事業報告書」を製作し, 研究成果と開発・研究・支援の体制作りなど今後活用できる資料として参照できるようにする。

(文責: 丹羽量久, 井ノ上憲司)